

平成 23 年 4 月 吉日

各 位

公益社団法人日本医療社会事業協会  
会 長 笹岡 眞弓  
第 59 回日本医療社会事業全国大会  
第 31 回日本医療社会事業学会  
大会長 野上 美智子  
(大分県医療ソーシャルワーカー協会会長)

第 59 回日本医療社会事業全国大会 第 31 回日本医療社会事業学会開催について

陽春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

来る平成 23 年 5 月 28 日（土）、29 日（日）の 2 日間、医療ソーシャルワーカーの全国学会「第 59 回日本医療社会事業全国大会 第 31 回日本医療社会事業全国大会」が別府市のビーコンプラザで開催されます。

つきましては開催要項を添えてご案内させていただきます。

皆さま方のご参加を心からお待ちいたすとともに貴院の医療ソーシャルワーカー、連携室担当者等にお声かけ頂ければ幸いです。

※大会の詳細、参加申込方法等については

大分県医療ソーシャルワーカー協会ホームページ <http://oita-msw.com/> をご覧ください。

※参加申込締切 平成 23 年 5 月 13 日（金）

(お問合わせ先)

大会実行委員会事務局

〒879-2201 大分市大字佐賀関 750 - 88

社会医療法人関愛会 法人事業本部内

090-4485-3730

(担当 高橋)

第 59 回日本医療社会事業全国大会

第 31 回日本医療社会事業学会

## おおいた大会

## 開催のご案内

### 大会テーマ

「 貧困と家族 ―現代社会の貧困と向き合う― 」

日 時 2011年5月28日(土)～29日(日)

場 所 別府国際コンベンションセンター (B-Con Plaza)

〒874 - 0828 大分県別府市山の手町 12 番 1 号

主 催 公益社団法人日本医療社会福祉協会

大分県医療ソーシャルワーカー協会

### 大会事務局・連絡先

大分県医療ソーシャルワーカー協会事務局 担当:事務局長 高橋勝

〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関 750-88

社会医療法人関愛会法人事業本部事務局内

m-takahashi@sekiaikai.jp

大会ホームページURL : <http://www.oita-msw.com/taikai.html>

# 趣 意 書

この度、第59回日本医療社会事業全国大会及び第31回日本医療社会事業学会を2011年(平成22年)5月28日(土)、5月29日(日)の両日、別府コンベンションセンター B-Con Plazaにて開催する運びとなりました。本大会・学会はソーシャルワークの分野から円滑なる医療の遂行を図るため、専門技術を調査研究するものであり、今後の大分県ならびに我が国における保健福祉の向上・増進に寄与するものであると期待されております。

今大会のテーマは「 貧困と家族 ―現代社会の貧困と向き合う― 」です。以下その趣意を述べます。

「貧困」の問題はどの時代にも存在するが、現代社会の抱える「貧困」問題は複雑化し、また多様化している。日本人の最低限度の生活の認識を、「食べていくこと」だけにしか求めないのであれば、それはとても質の悪い生活のありようしか想定していない。ワーキングプアという言葉で表わせるように、“仕事さえあれば食べていける”という従来の神話は、すでに通用しない現実がある。また低迷する経済状況の中、地方では都市部で解雇された若者が故郷へ戻り、親の年金で養ってもらっているといった現実もあり、「貧困」が潜在化している。

このような状況において、社会生活からドロップアウトした若者の生活習慣が崩れて病気となり、医療費に事欠くケースや、頼りであった年老いた親が入院し、医療費や生活費が捻出できないケースなどが、山ほど病院に持ち込まれている。厳しい社会的背景の中で、我々は「貧困」の課題を抱える患者と家族に出会う。支え合おうとしても限界に達している「家族」や、個人主義の末に崩壊している痛ましい「家族」、近年クローズアップされている無縁社会に生きる「家族」の姿に、我々は臨床現場で直面する。

しかしこのような事実直面しているにもかかわらず、我々医療ソーシャルワーカーは患者の「貧困」の現実を、社会的・構造的に捉えていたのであろうかと、内省する。社会の歪みの中で、なすすべもない患者に対するソーシャルワークとは、患者の生きる力を取り戻す援助である。疾病を抱えたことはネガティブなことであれ、疾病に起因する心理的・社会的課題を乗り越えていくために、患者と家族が協力し、いたわり合う「人と人」の関係性の再構築を図ることこそがソーシャルワークである。社会生活を取り戻すための経済的援助とともに、関係性の再構築はソーシャルワーク本来の使命である。本大会では潜在化・複雑化する「貧困」の社会的・構造的課題に関心を払いながら、患者と患者を取り巻く最小の関係性としての「家族」の力について考える。「貧困」に立ち向かう患者とその家族へのソーシャルワークの中に、ソーシャルワーカーの固有性を見いだしたい。

今大会・学会を実りあるものとして成功させるため、ご理解頂き、ご協力、ご支援下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

2011年(平成23年)4月吉日

公益社団法人 日本医療社会福祉協会  
会 長 笹 岡 眞 弓  
大 会 長 野 上 美 智 子  
(大分県医療ソーシャルワーカー協会会長)

第59回日本医療社会事業全国大会  
第31回日本医療社会事業学会

大会テーマ 「 貧困と家族 —現代社会の貧困と向き合う— 」

大会趣旨

「貧困」の問題はどの時代にも存在するが、現代社会の抱える「貧困」は単なる経済的貧困にとどまらず、無縁社会という言葉で表現されるように人と人との関係性の「貧困」に特徴づけられる。我々MSWは支え合おうとしても限界に達している「家族」や、個人主義の末に崩壊している痛ましい「家族」、無縁社会に生きる「家族」の姿に臨床現場で直面する。本大会では、潜在化・複雑化する「貧困」の社会的・構造的課題に関心を払いながら、患者と患者を取り巻く最小の関係性としての「家族」の力について考える。

大会日程(1日目)

第1日目 5月28日(土)

時 間	プ ロ グ ラ ム
9:00～	受付
9:30～10:10	開会式
10:10～11:30	大分県医療ソーシャルワーカー協会企画
11:30～13:00	昼食休憩・自主企画・ソーシャルワークデータシステム委員会企画
13:00～14:30	「災害対策本部、現地よりのソーシャルワーク活動報告」 東北地方太平洋沖地震対策本部
14:30～15:00	休憩
15:00～18:00	公益社団法人日本医療社会福祉協会 定期総会
18:30～	交流会(会場:別府杉乃井ホテル)

【大分県医療ソーシャルワーカー協会企画】

“貧困と家族”を考える～大分県協会より、実践者の視点～

【自主企画】

「ISTT(統合的短期援助)の実践について考える」

「小児ソーシャルワークを考える」

「オンコロジーソーシャルワークを考える」

【ソーシャルワークデータシステム委員会企画】

「SWHS ソーシャルワークデータシステムを用いて得られた結果と SW 実践の根拠データを作成していくということ」

【特別講演】

テーマ:「日本人らしさと家族の絆」

講師:櫻井よしこ氏(ジャーナリスト)

【災害支援報告】

報告者:公益社団法人日本医療社会福祉協会災害対策本部

## 大会日程(2日目)

第1日目 5月29日(日)

時間	プログラム
9:00~12:30	分科会
12:30~14:00	昼食休憩・ランチョンセミナー 交通事故被害者生活支援教育事業運営委員会企画・倫理綱領検討委員会企画
14:00~15:30	鼎談
15:30~16:00	閉会式

【分科会】

第1分科会 人権・教育

第2分科会 ソーシャルワーク実践

第3分科会 業務分析・業務改善1

第4分科会 業務分析・業務改善2

第5分科会 ソーシャルワークリサーチ

【ランチョンセミナー】

「病院機能別実習プログラミングシートの紹介ー作成の取り組みについてー」

【交通事故被害者生活支援教育事業運営委員会企画】

「交通事故被害者生活支援におけるソーシャルワーカーの現状と今後の課題」

講師: 日本損害保険協会 業務企画部長 杉田純一

国土交通省 自動車交通局 保障課 被害者保護企画官 高木修

【倫理綱領検討委員会企画】

「倫理綱領の改訂に向けて—IFSW における国際的議論の現状」

講師: アジア太平洋ソーシャルワーク会議会長 秋元樹(日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授)

【鼎談】

岡本民夫(同志社大学名誉教授)

衣笠一茂(大分大学教育福祉科学部大学院福祉社会科学研究科准教授)

野上美智子(大分県医療ソーシャルワーカー協会会長)

9:00～15:30【大分県医療ソーシャルワーカー協会自主企画(ワークショップ)】

「ソーシャルワーカーが身につけておくと役立つ家族との面接スキルトレーニング」

講師: 堀之内高久(メンタリング研究所顧問 元横浜国立大学保健管理センター准教授)

**※プログラムの詳細は大会ホームページをご参照ください。**

【第1分科会】 人権・教育(座長 関西学院大学 小西 加保留 氏)

1-1 Jonsen らの臨床倫理の4 分割法を用いた事例検討について～脳腫瘍患者が抱える医療福祉ニーズの検討～

久留米大学病院 植木 智美

1-2 Judgment Based Social Work Ⅲ 法律が認める『退院』とは何か～患者に対する強制退院の判例から～

東京海上日動メディカルサービス(株) 臼倉 幹枝

1-3 DV 相談におけるソーシャルワーカーの役割 ～院内・院外の支援体制構築～

総合病院国保旭中央病院 高山 美津子

1-4 DV 被害者支援院内外連携システムの構築と効果

地方独立行政法人佐賀県立病院好生館 大石 美穂

1-5 MSWが関わる入院助産制度を利用する出産要支援者の実態

聖隷浜松病院 島田 綾子

1-6 実習指導者資格要件が大学に及ぼす影響

東北福祉大学 山川 敏久 宮城県立こども病院 真嶋 智彦

1-7 国立大学病院における医療ソーシャルワーカー実習生受入れに関する実態調査

神戸大学医学部附属病院 都成 祥子

1-8 SOAP 方式の記録演習からの考察 ～ソーシャルワーカーとしてのアセスメントが書けるか～

国立病院機構神奈川病院 井田 茂樹

1-9 現任訓練における事例教育法の導入

同志社大学 野村 裕美

1-10 MSWの専門職化のプロセス分析 ～実習指導者講習会の側面より～

西片医療福祉研究会 草水 美代子

【第2分科会】ソーシャルワーク実践(座長 天理大学 武田 加代子 氏/沖縄大学 富樫 八郎 氏)

2-1 退院支援から見えてきたものとは～SWとしての自分に向き合う～

財団法人慈愛会今村病院分院 淵上 隆実

2-2 『消えた』年金相談に対するソーシャルワーカーの取り組み～社会保険労務士との連携～

森山記念病院 高橋 澄穂

2-3 高齢化する精神科長期入院患者へのソーシャルワークを考える

医療法人緑心会横山記念病院 野瀬 弘康

2-4 急性期病院におけるMSWの果たしている役割

大阪労災病院 佐原 直幸

2-5 ソーシャルワークニーズに対する一考察 ～救命救急センターでの事例を通じて～

東京女子医科大学東医療センター 大塚 亮子

2-6 街中がんサロン「ちっこ」の効果を検証する～筑後ブロックがん相談支援センター連絡協議会の実践研究～

大牟田市立病院 北嶋 晴彦

2-7 がん患者・家族サポートグループの体制構築 第1 報

聖マリアンナ医科大学病院 坪田 由紀子

2-8 介護従事者への脳卒中に関する研修会開催の効果と病院MSWの役割

砂川市立病院 及川 佑介

2-9 研修医と協働したソーシャルワーク援助の意義と課題

トヨタ記念病院 近藤 尚人

2-10 医療扶助に関する矛盾へのソーシャルアクションを通じて

中通総合病院 佐藤 壮

2-11 外国人患者への支援を通して社会的弱者への支援を考える

総合病院国保旭中央病院 佐久間 裕子

2-12 単身患者の転院援助に関する一考察

全国社会保険協会連合会健康保険鳴門病院 郡 章人

【第3分科会】業務分析・業務改善1(座長 湯布院厚生年金病院 松尾 美穂 氏)

3-1 内科病棟における退院支援の現状～退院困難要因とSWの介入時期、支援時間、在院日数との関係について～

浅井病院 作田 滋

3-2 地域連携業務についての一考察 –ソーシャルワーカー業務としての可能性を考える–

わかくさ竜間リハビリテーション病院 木下 結

3-3 エビデンスに基づくりハビリ病院転院支援を目指して

聖隷浜松病院 鈴木 勇太

3-4 1 回支援と複数支援の相談内容の分析 ～MSWの支援についての考察～

国立病院機構横浜医療センター 高瀬 昌浩

3-5 インテーク面接での相談事前質問票導入の取り組み

JA 神奈川県厚生連相模原協同病院 中山 照雄

3-6 患者・家族調査によるMSW業務へのアウトリーチ ～そこから見えるもの～

神戸徳洲会病院 水口 有美

3-7 社会資源データベースを用いた社会資源情報標準化の試み

刈谷豊田総合病院 樋渡 貴晴

3-8 徳洲会グループ病院の統一日報と分析の試み第一報 ～配置基準を目指して～

札幌徳洲会病院 上井 奈穂美

【第4分科会】業務分析・業務改善2(座長 久留米大学 片岡 靖子 氏)

4-1 町内会活動による医療・福祉の地域連携方策に関する実践研究

北海道医療大学 長谷川 聡

4-2 回復期リハビリテーション病棟からの復職支援の取り組み(第一報)

医療法人三九会三九朗病院 高橋 邦代

4-3 国土交通省 自動車事故重度後遺障害者短期入院協力事業 済生会中津病院における取り組み

大阪府済生会中津病院 笠藤 晋也

4-4 小児病棟におけるソーシャルスキルトレーニングの実施

独)国立病院機構三重病院 高村 純子

4-5 改正臓器移植法施行に伴う院内体制整備をMSWが担当して

社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院 内田 美加

4-6 在宅支援におけるMSWの取り組み

大阪医科大学附属病院 川西 真理 小野 美鈴

4-7 救命救急センター入院患者へのスクリーニング機能についての考察

東海大学医学部付属病院 伊勢 啓一

4-8 佐賀県診療録地域連携システム (pica pika LINK)を用いた退院調整についての一考察

医療法人静便堂白石共立病院 武富 勝司

【第5分科会】ソーシャルワークリサーチ(座長 日本福祉大学 田中 千枝子 氏)

5-1 チーム医療におけるソーシャルワーカーの役割 ～外来通院援助を通して～

四谷メディカルキューブ 中里 哲也

5-2 診療報酬における社会福祉士の位置づけによる影響～栃木県医療社会事業協会会員へのアンケート調査から～

栃木県済生会宇都宮病院 鈴木 孝尚

5-3 他職種チームに倫理観及び価値観が及ぼす影響についての一考察

鴨島病院 井手之上 浩伸

5-4 身体合併症を有する認知症症例の退院援助に関する検討

順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター 塩路 直子

5-5 ホームレス患者の転帰先に関する報告

東京都済生会向島病院 柏倉 剛彦

5-6 「看取り」の選択 ～救命救急センターからの転院支援ケースより～

兵庫医科大学病院 木村 亜紀子

5-7 オストメイトにおける家族の凝集性と精神的健康との関連性

岡山県立大学 竹本 与志人

5-8 若年乳がん患者の心理社会的課題とその支援

ルーテル学院大学大学院付属包括的臨床死生学研究所 大橋 英理

5-9 事例にみる統合的短期援助(ISTT)の構造と実践のポイント

社会保険中央総合病院 柳田 千尋